

第3回大月市立大月短期大学附属高等学校基本問題審議会

日 時 平成17年11月16日(水)

午後1時30分～午後4時

会 場 附属高等学校 会議室

出席者 委 員 12名

長沼委員、富田委員、斎藤委員、正木委員、佐々木委員
井上正委員、原田委員、藤本委員、嵯峨委員、井上武委員、
平井委員、酒井委員（杉本委員、小俣委員、平田委員は欠席）

大月市

山口教育長、小笠原参事教育次長、藤原校長 上野事務局長
横田副主幹、古屋主査

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - 1 前回会議録の確認
 - 2 諮問事項について
- 4 閉 会

議事内容(会長が議長)

議 長 第1回審議会で諮問事項、附属高校を取り巻く現状、学校の経営状況等の資料の説明を受けて討議して、第2回ではさらに必要な資料について説明報告をいただいて会議を進めてきました。本日は、附属高校の発展活性化策を出して審議して頂くわけですが、最初に前回会議録の承認をして頂きたい。何か質問はございませんか。なければ承認頂いたということで、次に前回財政面で交付税の基準財政需要額等について質問があり課題になっていたので事務局から説明願います

事務局 交付税の仕組みについて資料の図で説明します。地方交付税算定について基準財政需要額は大月市の諸要素によって定数がありまして、それに基づいて算定されたものです。経常経費が、4,829,033 千円、この中に教育費ということで高等学校費 356,386 千円算定されています。投資的経費という中にも高等学校費として 15,854 千円算定されこれらが含まれて大月市の基準財政需要額が 6,529,089 千円になります。これは 17 年度予算ベースの数字です。次に、基準財政収入額がございしますが、市税が 4,291,843 千円、譲与税これは所得譲与税・地方道路譲与税等が含まれて 248,570 千円、交付金と言うのは利子割・配当割・株式等譲渡所得割等色々な交付金があって 463,872 千円です。この総額が

5,004,285 千円でございます。基準財政需要額を算出して基準財政収入額の足りない分が交付税として 1,524,804 千円交付されるということで、高校に純然たるものと言いますと自主財源を含めた中で基礎算定となっているこれが 372,240 千円と言うことございまして、では 15 億円が高等学校費にどの程度かと言いますと基準財政需要率の中で約 7～8 割程度になっておりますので、その残りですので 2 割程度が 15 億円に 2 割を掛けた分がこれに乗るのかなということで明確なことはわかりません。交付税の形がこのようなことをご理解願いたい。

議長 前回財政課長からの説明にさらに詳細な資料と説明がありましたが、何か質問がございますか。

委員 前は他の委員会の用事があって欠席しましたが、前回の資料を頂いて財政について色々説明があったようですが、将来を担う子供の教育をどう捉えているのか、特に少子化になっている今大月市の子供をいかに育てなければならないか、いかに大月市の財政が厳しいと言っても予算面だけで決めるわけにも行かない。又県立高校の改革等県の動きも見極めて附属高校が自然消滅ということのないように、中学生を持つ父兄の意思も考えて要望ですが市民が納得する答申を出して頂きたい。

議長 委員さんの要望を含めた意見については、今日色々意見が出ると思います。財政については、「議会だより」に財政事情だけが見直しの検討材料でないことをご理解願いたいと明言しているわけですが、この審議会でも財政事情だけを問題にしているわけではありません。しかし、発展策、活性化策を考える中で、その背景としては財政面も考えなければならない。そういうことを考慮して意見を出してください。前後して申し訳有りますが、今回資料は参考資料として新聞に掲載された第一次進路希望調査、公立高募集定員、PTA 会長さんからのご意見、私のところに手紙やメール等できた意見をいくつか参考資料として出しました。関心を持っている方もいるということで参考にして下さい。教育長さんから何かございせんか。

事務局 先の事務局の説明の交付税の見方について少し補足したいですが、資料の図で基準財政需用額として 6,529,089 千円あります。その右横に 5,004,284 千円となっているこの数字が同じだとわかりやすいのですが、5,004,285 千円は 463,872 千円までを下から足した数字で、6,529,089 千円に対して 5,004,285 千円との差額が交付税 1,524,804 千円となると理解していただければわかりやすいと思います。今、国では基準財政需用額を下げようとしています。基準財政需用額というのは、例えば、市民が人口一人当りにあらゆる事業に対して何円と言う積み上げをして、学校が一校当り何円と言う掛け算をして積み上げ、道路延長何メートル・面積何平米に対して何円という積み上げをしてその数字の合計が基準財政需用額として出る訳です。その係数を年々 95% にするとか、一部分を 80% に

して積算するとかして下げようとしています。基準財政需用額が下がってきますと差額の交付税 1,524,804 千円が小さくなって国の交付税が減ることになるということでご理解願いたい。全体的な進め方・考え方ですが活性化策を出して頂き、それを検証する中で一つの方向性が出るのではないかと思いますので、多くの意見を出して頂きたい。

議長 行政の専門的なことについてはなかなか理解しにくい面がありますが、参考情報として考えて頂き、前回からの課題として具体的な活性化策・発展策を自由に出して下さい。

委員 皆さんのお手元にある参考資料については、予算面や実現可能不可能があると思いますが思いつくままに、PTAの会長として委員になったという立場で書いてみたものです。野球部を強くして常に甲子園を目指す学校にする。商業科を生かして高校を卒業しても就職できる。インターンシップは県立高校ではしていないので前面に出して県下の中学生や保護者にアピールしていけば生徒も集まるのではないかと。新聞の第一次進路希望調査では附属高校の希望者は少ない、都留校を希望する生徒が多いですが、通学の条件、経済的な面等いろいろな面で附属高校への希望者も多くなってくる。これから先すぐに生徒が減るとは考えられない。将来は中学生が少なくなりますので、その時は生徒募集に関しては県立高校との勝負だと思います。あとはこの資料の中に書いてありますので読んで頂きたい。

委員 大月短大で講座がありまして、大月市の財政について詳しくわかりやすく説明して頂きました。大月市の財政は東電の関係で税が減るので将来的にはわからないが現在は良い状態で決して悪くない、貯金が多く51億もあるそうです。これからの子供のことについて産業と学習を結びつけていく事が大月市の発展の道ではないかと。短大の学長さんのお話がありまして、大月短大は黒字だそうです。教職員が一丸となって関東周辺の高校240校を回って募集活動をした結果、かなりの推薦が来ているとのことでした。短大の先生方が募集活動に努力しているのに、この地元の附属高校からの進学率が低いことは残念なことだと思います。附属高校の活性化についてですが、大学と高校があるということは学園都市だと思います。附属高校であることを活用して進学希望者は大月短大へ進学出来るようにする。5年生の高校大学と言う考え方で短大卒業時に次のステップを考える方向で考えてみたらどうでしょうか。また、就職する生徒に対しては、吉田高校の生徒がパソコンの全国コンクールへ出場という記事が新聞に載っていましたが、資格をしっかりと取る指導をして履歴書に資格の経歴が書けるようにして就職指導をする。前回も言いましたが商業科を活かして頂きたい。

委員 中学の教頭の集まりで何を附属高校に望むかを聞いてみたところ、まず授業をしっかりと学力をつけて欲しい。次に生活規律の生徒指導をして生徒の生活

面・学力面で質をアップさせて欲しいとの要望がありました。附属高校は普通科もありますが商業科がベースになっているので、専門学校へ行くにしても就職するにしても実績を出してそれをアピールしていかないと、これから入学しようとする生徒はそういうところを見ますので実績を上げて欲しい。大学の指定枠があってもそれを中学生だけでなくもっと市内広くアピールしていかなければ高校の評価はされない。先生方も活性化を図って人事交流していますがそれをさらに進めて欲しい等の意見が出ました。インターンシップに取り組んでいると言うことですが、文科省でデュアルシステムの取り組みも始まっています。山梨の場合は農林高校で実施していますが、附属高校もそういう形で企業とタイアップして取り組んでいくことも大事なことはないか。

議長 今まで色々な意見が出ましたが、これが活性化策と言う決定的なものが見つからない。具体的な活性化策はございませんか

委員 教育懇話会の提言がありましたが、そのあとに高校からの7つの提言がありますが、これの進捗状況はどうなっているのか。

事務局 7つの提言についての取り組み状況を報告します。1.中高一貫教育の推進については取り組んでおりません。2.特色ある学科・コースの設置
3.地域にふさわしい開かれた学校づくり これは今年の入学生からキャリア教育への転換を図るということで、総合的な学習の時間とロングホームルームをリンクさせて毎週一単位ずつ学習面生活面人間としての有り方について調べ学習を中心に取り組んでいます。来年度現在の1年生が2年生になった時に夏休みを利用して5日間就労体験インターンシップを実施します。今日も地元の事業主の方が6名お見えになって説明会をしています。今まではインターンシップも商業科を中心に希望者のみをやってきたわけですが、産業界のニーズを取り込んで普通科の生徒も目的をもった学習をさせるということで、本校の目指す教育の根幹は人格の完成であるのでそれを柱に据えてキャリア教育を図っています。4.高大連携については、聴講生が昨年は9名でしたが今年は11名の生徒が希望しています。これについては今後大学との連携を蜜にして、本校にきた生徒が推薦入学に有利ですので短大で多く学んで頂いて地域の活性化に生かせるような人間教育をしようと進めています。5.国際理解・国際化時代に対応した教育については、語学研修を現在中断していますが海外の就学旅行を語学研修の延長として実施しています。希望者が年々減っているので今後国際理解教育に対応した形としてはどういうものが好ましいか検討しているところです。6.情報化社会に対応した教育については、本校はパソコン80台を設置しているので、キャリア教育の一貫として職業調べ、そのために必要な学問調べ等に活用しています。7.インターンシップの推進については今年の1年生から取り組んでいるわけですが、昨年からプランを立てて現在92の事業所に協力して頂けることになっており、最終的な目標

としては1年生が146名おりますので146の事業所を開拓したい。保護者にも協力いただいて教師と共に事業所の開拓をしている。17年度入学生からを対象に2年生で5日間の職場体験を通じ将来の職業選択を自ら考える指導を行う。商業科については今後県立高校では総合学科として一つになるプランもあるので、国中では市立甲府商業、塩山高校の商業科、郡内では本校が商業科をベースにやってきたので産業界のニーズを取り入れてキャリア教育を積極的に進めていけば特色ある教育が出来るのではないかと取り組んでおります

議長 現実の問題として先生方の努力していることはわかりますが、子供を持つ親の意識と方向性が少し違っているのではないか。中学の生徒数の問題で平成18年度が大月地区328人、上野原地区287人、都留地区497人合計1,112人で、19年度はほぼ同じ、20年度は約1,000人程度になる見込みで、今年の高校の定員を見ると都留校・上野原高校・桂高校・谷村高校、附属高校で約1,000人、しかし、東京・国中方面へ150人から200人が流失している、定員より100人程度生徒数が少ない現状で、保護者の意識がどうなのかを考えたとき活性化をどうしたらいいのか。先ほど、授業をしっかりと欲しい、学力をつけて欲しいという要望が先生方からあるという意見が出ましたが、市民の声の中にもあります。活性化を考えたとき父兄の期待に応えられる学校はどういう学校なのか、いい学校ってどういう学校か、大学進学率が高い、国公立に何人入るか、学校の序列化が進むなかで県立高校と同じ対応を附属高校がするとしたなら改革の要素は、大胆な意見ですが普通科の生徒は国公立の大学へ何人入ったかが焦点とならざるを得ないとすれば活性化策は何があるかということになります。財政的な問題もありますが、どういう形で内容改革をしていったらいいのか活性化策の意見を出していただきたい。

事務局 本校に来る生徒の実態は、まず、都留高、次に上野原高校、桂高校、谷村高校、附属高校となっている。最初から本校を目指す生徒もいますが、そういう生徒も大勢いる。こうした中で学力間の問題があります。都留校と同じ教育をやっていたのでは本校の特色は出せない。本校の育てたい生徒像・学力間はどういうものか検討した結果、問題意識・課題意識を持っていない生徒がいる。勿論発展学習に対応出来る生徒もいる。その二つの生徒に十分な教育を保障していくためには、二つの学力間が必要になる。一つは生徒に常に課題・問題意識を持たせる。その意識が出ると考えることが出来る。そのことによって、生徒が正しい判断をし学習・行動出来る。このことが欠如している生徒が勉強もしないし生活面でも問題が出る。生徒自身が理解して改善努力しなければ自己育成力もつかない。優秀な生徒もいます。その生徒については普通科高校が目指している知識・理解・技能をしっかりつけさせもう一つの学力間としてしっかりやっていく。本校としては努力して取り組んでいるところです。

委員 13年に教育懇話会からの提言があり、高校からの提言も出して今具体的に進めている。何年もたっていないわけですから、それ以上の活性化策が出るものなのか疑問に思ったわけです。部活の話も出ている、ソフト面でもいろいろ手がついている。子供が少ないという中で県立高校も特色を出そうと一生懸命やっている。同じ事をしても第一希望として附属高校へ行きたい生徒はいない。県立にない何かを作らないと根本的活性化にならない。そこで中高一貫教育は学校側もそういう提言をしたなら出来ないものなのか。又は県下でも中途退学した生徒が400人近くいる、その生徒を集中的に教育するか、何か特徴を出さないと県立高校との差別化は出来ないのではないか。中高一貫がすぐ出来るものでもない、財政的問題も有る、市内の生徒でない県下の生徒を附属高校が学校まで作ってする必要があるのか色々議論はあります。他の高校と差別化を図るのなら高校が提言した中高一貫教育は非常に特徴のあるものだと思う。

議長 中高一貫教育の問題とか、県立高校との絡み合いのなかで附属高校がどのような特色を出していけるのか、県立高校改革が行われれば、県立高校のあり方の問題も参考にする必要もある。一番の問題は、少子化の中での子供の序列化だと思う。これら等も含め抜本的な改善策、存続策が必要だと思う。そういう点について意見を出して下さい。

委員 都留校へ行きたい生徒が多い。それを目指して生徒も頑張る。それでも都留校が受からない生徒は中学で附属高校へ行くよう指導する。通学や経済的なこともあって附属高校に最終的には生徒も集まる。いままで、それでも大月市立の高校として受入れて存在してきた。県立高校に入学できない能力の格差のある生徒たちをどうするか。高校に入学できないで浪人させておくと言うわけには行かない、子供を持つ親の一番の問題だと思う。能力の格差だけで性格のいい生徒も大勢いる。こういう生徒を大月市はどう考えていくのか議論して欲しい。

委員 前回、財政難を論じたことは、誤解を招いたと思う。財政を問題にして廃校を考えることはしないで欲しい。能力的なことをあまり言わないでクラブ面・生活面にも良い所がある。財政というよりも、こういう面を考慮すべきではないか。

委員 生徒から挨拶をうけたが、挨拶ひとつにしても雰囲気が変わってくる。数年前に提言がされているのに市当局はどういうふうを考え取組みをしたのか疑問に思う。大月短大の職員も生徒募集に多くの学校を回って努力している。高校でもこういうことを真剣に考えれば、何らかの形は出てくると思う。今すぐに廃校という事を論じることではないのではないか。はっきりした目標を掲げてスポーツ活動等に力を入れて、全県一区で募集が出来るのだから定員確保は出来るのではないか。

委員 先ほど学校の説明の中で、取組みの成果が徐々に出ているということですが、都留校と比較すると学力の差がある。附属高校の目指すところは、品行方正の生徒を育てることに力を入れ、その成果をだして外部へアピールする。そういう所に

目を向けてほしい。それから、高大連携をもっと強化をしなければならないと思う。大月短大の附属高校であるのに短大への進学率が低い、少なくとも毎年2～3割の生徒が短大へ進学しなければ附属高校と言えないのではないか。短大との交流を深め連携を強化すればそれが大きな特徴になると思う。それから、私は普段から第3教育の充実というのを考えているが、第一教育とは、脳の教育。第二教育とは心の教育。第三教育とは子供の自主性を伸ばすための部活動を始め施設、設備の充実で附属高校の図書館を見たがもっと充実すべきで、お金を掛けなければならないと思う。あと、市内の生徒の納入金を少なくするとか、商業科を充実する為に情報処理科の方向への位置付けは出来ないのか、検討することかはあると思う。

委員 生徒たちの態度がよくなっていると言うことですが、野球部も3位と言う成績で頑張っている。教師も県と交流して、生徒も態度が変わってきている、真剣さが感じられる、いい面を考えて時間を掛けていい活性化策があるのではないかと考えて欲しい。頑張っている生徒のためにも廃校という事で萎縮させないような方向で考えて欲しい。

委員 部活の指導をして素直ないい子が多い。都留校の生徒と比べて人間的には変わらない。附属高校へ来て何をするか、どういう友達作るか、教師が引き出してあげれば成長していくと思う。附属高校もパソコンが充実しているとのことで、調べ学習に活用しているが、パソコンは頭を使わないのでその活用方法を考えればいいと思う。私学がどんなことをして子供を集めているのか研究しながら、先生方も学校の発展を考えるべきではないか。

議長 大変活発な意見が出ていますが、最初に決めておけばよかったのですが時間設定について4時までとしたい。

委員 校長先生にお聞きしたい、生徒の態度が良くなっているということですが、他校の生徒と比べてスカートの丈、男子のズボンが気になるのはどうしてでしょう。

議長 学校教育というのは、教師論だと思う。先生方は、危機感、職務の使命感みたいなものを感じてないのではないかと。そういう意見があるということを知っていない。高校の職員の意識改革、附属高校に対する地域の潜在的意識を変えていく啓蒙が必要だと思う。

事務局 私も、そう感じていました。学校評議員制度も導入出来ました。附属高校の外部評価を改善策も考えてホームページで公開しています。11月を生徒指導月間として毎週1時間かけ、服装の乱れ等を全校集会で本人が自覚するよう指導をしております。先ほど活性化は、教師の意識にかかっているというご指摘がございましたが、授業アンケートを取り、いい授業が出来ているのか、教師が生徒から評価を受けるということで年2回実施し改善の努力をしています。又、パソコンの調べ学習については、自分のやっていることに対し感想文を発表させる、生徒が主体

的に学習に取り組む、生活面の改善に取り組む指導をしております。

委員 校長先生の説明でよくわかりましたが、ホームページで公開していると言っても、親が見たり聞いたりするとはないので理解していないのではないか。先ほど中学校で成績を基に志望校を決めるという意見がありましたが、今は中学校ではそういう指導をしておりません。相談は受けますが最終決定は本人であり保護者です。成績的な面で都留校に行けない附属高校しか受からないという親の意識が、社会の意識・教育意識になっているのではないか。附属高校が社会の意識を変える事を考えなければ一般の附属高校に対する意識は変わっていかないのではないか。

議長 特色ある学校にするにはどうしたらいいのか、課題は色々あります。県立高校の対応の問題、大月短大の問題、教科内容で普通科商業科の問題、父兄の啓蒙の具体的問題と考えて見る視点ではないか。財政的な問題についても色々意見がありますが、無視することはできない。又、大きく考えて人口の問題、大月市にいかに人を定着させ住ませるか、大月短大・附属高校はどういう存在かと言う視点で考えて見る必要があるのではないか。次回の審議会には、存続を前提にして経営・運営等具体的な活性化策を提起して頂きたい。

委員 今、ここで存廃問題が出てきて、個人的には少子化という中で理解はできるのだが、何度も言うようですが、都留校に行けない子供たちのことを考えると廃止などと言うことは考えられない。都留校が成績だけでなく色々な面で生徒を受入れてくれれば考える視点も変わってくると思うが、現実問題としてそうはならないのではないか。

議長 存続か廃止どちらかと言う選択でなく、存続を前提にした具体的活性化策を出して頂きたい。

委員 今まで出た意見を項目別に整理して出して欲しい。

議長 今の要望について事務局にお願いします。次回はその中身について活性化策を具体的に絞って検証をします。次回は12月16日午後1時30分からです。

副委員長 色々な意見が出ましたが、附属高校の発展策を答申出来るよういい案をまとめたいが、なかなか具体的な活性化策が出ない。次回にはいい発展策を検討できるようお願いして、本日は閉会したい。